

献 辞

経済学部での研究・教育に長きにわたってご尽力いただいた原田博夫教授が定年を迎えられ、2019（平成31）年3月末をもって専修大学を退職されることとなりました。私たち経済学部スタッフ一同は、これまでのご功績に対して『専修経済学論集』第53巻第3号（通巻132号）を「原田博夫教授退職記念号」として呈上し、衷心より感謝の意を表したいと思えます。

原田教授は、1979年に慶應義塾大学大学院経済学研究科博士課程単位取得退学後、1980年4月に専修大学経済学部にて専任講師として着任され、その後1982年に助教授となり、1986年に教授に就任されて、今日に至ります。主にご担当いただいたのは、学部での「地方財政論」「ゼミナール」、大学院での「租税政策特論」「財政学特殊研究」等でした。また、学内行政における役職としては、就職指導委員会委員長、KSパートナーシップ・プログラム運営委員長、社会知性開発研究センター運営委員、大学院経済学研究科長等々を歴任されました。とりわけ、社会知性開発研究センター関係では、文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業に選定された、社会関係資本研究センターおよびソーシャル・ウェルビーイング研究センターなど、専修大学を代表する研究プロジェクトの代表を10年間にわたってお務めになるなど、多大な貢献をなしてこられました。

また、1982年から1983年にかけて、フルブライト・プログラムにより米国スタンフォード大学に、1993年から1994年にかけては、専修大学長期在外研究員として米国ジョージメイソン大学および英国ロンドン・スクール・オブ・エコノミクスに留学され、1996年には外務省・対モンゴル知的支援プログラムによりモンゴル国税制調査に従事されるなど、研究および社会貢献の両面において国際的に活躍してこられました。

学会活動の面では、政治社会学会理事長・会長、公共選挙学会会長、日本計画行政学会副会長、国際アジア共同体学会副理事長、日本経済政策学会常務理事、日本財政学会理事など、多くの学会における重職を歴任されました。さらに、社会貢献活動の

領域においても、川崎市特別職報酬等審議会会長、川崎市事業評価検討委員会会長、泊江市基本問題計画策定委員会会長、(公財)日本都市センター「分権型社会を支える地域経済財政システム研究会」委員長、いばらき里山バイオマス協議会会長など、実に多方面でご活躍をしてこられました。

原田教授の研究を振り返ってみるとき、財政金融政策・地方財政論・租税政策・公共選択論・社会関係資本をはじめとする多くの領域で多彩な業績をのこしてこられたことがわかります。財政金融政策の分野では、同政策と市民生活との関連について考察した著書『成熟の日本経済』(共著、中央経済社、1982年)などを、また、原田教授の最も主要な研究領域である地方財政論分野では、『現代財政のフロンティア展望』(共著、成文堂、1987年)、『高度産業社会と国家』(共著、筑摩書房、1988年)、『現代財政のフロンティア』(共著、東洋経済新報社、1992年)などの著書・論文を、公共選択論の領域においては、公共選択論の視点から地方自治を論じた著書『入門・公共選択—政治の経済学—(改訂版)』(共著、三嶺書房、1999年)などを、租税政策の領域では、「税制改革税調素案の多角的検討：地方税改革素案を論評する」『税経通信』Vol.43 No.5(通巻592号)、1988年他多数の論文を、そして、社会関係資本研究の分野では、“Social Capital from the Viewpoint of Policy: An Essay,” *The Senshu Social Capital Review*, No.1, July 2010.をはじめとする多数の論稿を、さらにその他多彩な領域において『身近な経済学—小田急沿線の生活風景—』(編著、専修大学出版局、2009年)など多くの著書・論文等を業績としてあげることができます。こうした数多くの研究業績からは、原田教授の旺盛な研究活動と学問への熱意が伝わってくるものであり、それらは後進の私たちにとってまさに鑑とすべきものと思われまます。

ご退職にあたり、次のようなメッセージをいただいております。

平成時代も残すところあと半年足らずとなりました。元号制度については、現在はいろいろな評価の仕方があると思いますが、多くの日本人にとって、やはり時代を写す、あるいは時代を反映したイメージで捉えているのではないのでしょうか。その平成も31年をもって新元号に代わります。それに合わせたかのように、

私も平成31年3月末日をもって定年退職と相成り、専修大学での教員生活に終止符を打つことになりました。自分もそんな歳になったのかと、まったくもって自覚できていませんが、年齢を偽るわけにはいかないので、この現実を受け止めなくてはなりません。

2019年夏以降は、私の生活拠点も故郷・土浦市に戻す予定です。もちろん、東京にも月に一度あるいは週に一度は出てくるかもしれませんが、暫くは、忙しすぎたここ数年の生活からいかに歳相応の定常状態に軟着陸させるかが、当面の課題だと考えています。皆さんとの邂逅も期待しています。

最後に、春風駘蕩の季節、本学を退職された後にご自愛専一で過ごされますようお願いするとともに、学術研究の世界におけるさらなるご活躍を祈念しております。そして、専修大学及び経済学部的发展のために、折に触れてご助力いただけますようお願い申し上げます。以上、原田博夫教授の古稀と定年での退職を心より寿ぎつつ、これまで賜ったご指導への深謝の念をこめて私からの献辞とさせていただきます。

2019（平成31）年3月

専修大学経済学部長 兵頭 淳史